

雨と 防除 タイミンク



左ページの川崎豊洋さんが使う雨量計。ジマンダイセン単用のときに左の色テープ部分を、マシン油との混用のときに右の色テープ部分を見る

「雨量計」で黒点病を防いで、 ピカピカのミカン

佐賀県太良町・川崎豊洋さん

編集部

「今、ミカンを六町増やしてます。ミカンが底値のいまどき、こんな農家、なかなかいないでしょ」と、威勢がよいのが川崎豊洋さん（三七歳）だ。川崎さんは現在、共同で一〇町歩を経営。さらに極早生を拡大中。いまだき量で勝負できるなんて珍しいと思うたら、いやいや、とんでもなかった。糖度もバツチリ、見た目もピカピカのミカンが自慢なのだった。

半分が「特選」の上をいく

川崎さんの地域の農協には、ミカン



川崎豊洋さん。農業法人いかなひろの代表。うしろに見えるのが造成中の圃地で6町ある

の階級が「レギュラー」「特選」「ゆたたり」と三つあるのだが、一昨年の川崎さんの大津四号は「特選」の上をいく階級の「ゆたたり」の比率がなんと全体の半分も占めていた（一八〇ページ表1赤印部分）。キズが少しでもあったら「ゆたたり」にならないというから、外観はきわめて美しく、糖度は一三度以上あった。川崎さんはこうい

う。

「おいしいミカンをつくるにはまず、『立地条件』と『品種』。そのうえで糖度など果実の内容をよくするには『葉面散布』。そして、外観をよくするのが『雨量計』です」

雨量計でクスリの残効がわかる

川崎さんの家の庭には、右ページの写真のような雨量計が置いてある。文字通り、雨の降った量を調べるためのものだが、黒点病を防ぐためだという。

黒点病は、果実の表面を黒くして見た目を悪くする病気。川崎さんがこれに悩まされていたときに、本誌で連載中の佐賀県果樹試験場の田代暢哉先生（二〇〇五年十二月号から連載）が、雨量計を作ってくれたのだ。

先生によると、黒点病を含む果樹の病気のほとんどは「雨」で広がる。雨のときにクスリの残効を切らさないこ

とが防除を成功させるカギだという。では、クスリの残効期間は何で決まるのかというと、散布後の日数よりも、散布後の「雨」の量によって決まるという。つまり、散布後の雨量さえわかればクスリの残効がわかり、次の散布の適期がわかる。そのための雨量計というわけだ。

雨量計を置くようになって一〇年、川崎さんは黒点病の防除で失敗することがほぼなくなった。川崎さんのミカンが見た目にピカピカなのは、雨量計のおかげなのだ。

目安の雨量になったら散布

川崎さんの雨量計の使い方は単純。ジマンダイセンの散布目安にのみ使う。ジマンダイセンの残効は雨量で二五〇〜三〇〇mm。黒点病のクスリはなかでいちばん残効期間の長いクスリだからだ（一八〇ページ表2参照）。初回のジマンダイセンをかけ終わっ



川崎さんの山下紅早生。黒点病などの病斑がなく、高品質

たら、容器にたまっている雨水を捨てて空にする。その後、雨量が青色テープの貼ってある〇〇

二〇〇mmのうちはクスリ
の残効が期待できるので、
散布はしない。黄色
テープの貼ってある二〇
〇〜二五〇mmになった
ら、残効がそろそろ切れ
るので散布の準備にとり
かかる。赤色テープの貼
つてある二五〇〜三〇〇
mmになったら、残効が切
れるので次回のジマンダ
イセンをかける。以後、
同じようにくり返す。

単用で使うときは左側
の「単用」の目盛りで見
るが、マシン油を混用し
たときは、「混用」の目
盛りで見る。ジマンダイ

センにマシン油を混用すると、ジマン
ダイセン単用のとき比べて雨量で五
〇mm分、残効が長くなるからだとい
う。

**雨が少なければ散布を先延
ばし、多ければ前倒し**

雨量計の効果を具体的に去年の例で
みてみたのが次ページの図だ。防除暦
どおりに防除した場合と比べた。

川崎さんの地域の防除暦を見ると、
黒点病の予防散布は六月に二回やるよ
うになっている。けれども、去年の六
月は雨が少なかった。一回目にかけた
ジマンダイセンは二五〇〜三〇〇mm
の雨が降るまでは残効が残っているは
ずだから、六月に二回かける必要はな
い。しかし二回かけた農家もいた。ク
スリ代がムダ、労力もムダである。雨
量を見ていた川崎さんは、六月の二回
目はやめて、先延ばしした。
また、防除暦では七月の黒点病の予

● 雨と防除タイミング

防除暦を参考にした黒点病防除と雨量計を使った黒点病防除（去年を例に）

	防除暦	雨量計（川崎さん）
6月	上旬 エムダイファー600倍 中旬 ジマンダイセン600倍 ↳クスリ代、労力のムダ	上旬 ジマンダイセン600倍 雨が少なかったので先延ばし
7月	中下旬 ジマンダイセン600倍 またはベンコゼブ600倍 散布適期を見逃した 失敗	中旬 ジマンダイセン600倍 下旬 ジマンダイセン600倍 雨が多かったので前倒し
8月	中旬 ベンコゼブ600倍 またはキノンドー1000倍	中旬 ジマンダイセン600倍

↓
表面の黒いミカン

↓
見た目のきれいなミカン

*エムダイファーやベンコゼブはジマンダイセンに比べて残効期間が短い（表2）ので、川崎さんは基本的にジマンダイセンしか使わない。また、出荷の遅い品種には9月にキノンドーをかけた

雨の多い年ほど
効果を発揮

防は一回となっている。ところが去年は七月に雨が多かった。一回目にかけてジマンダイセンは二五〇〜三〇〇mmの雨が降ったらもう、残効が切れてしまうので、散布を前倒しする必要がある。ところがここで一回しかかけなかった農家もいた。やがて黒点病を発生させてしまい、あわててクスリをかけたようだが、あとの祭り。ミカンは格外だ。川崎さんは七月にもう一回かけたので、黒点病にやられずにすんだ。

こんなふうにして黒点病の防除は、毎年五月から九月にかけて四〜五回かける。雨が少ない年は放っておいても発生が少なく、防除もむずかしくないが、雨の多い年はクスリのかげどきがむずかしくなる。だが、そんな年ほど雨量計が真価を發揮するという。ちなみに以前も、クスリの残効を知るために、累積雨量を農協の技術員に聞いたりしていた。しかし、技術員からの連絡を待つ間に一〇〇mmくらいの雨が降ってしまい、手遅れということもあつた。そもそも雨量は地域によってけっこう変わる。それが今では、ひとめで自分の地域の累積雨量がわかるから、クスリのかげどきがピシヤツとわかるのだ。

ネットで現在の雨雲も見る

川崎さんはさらにインターネット情報も利用している。

たとえば、ジマンダイセンをかけて

表1 秀品率バツグンの川崎さんの平成16年大津4号（1日分）

等級 階級	ゆたたり			特選			レギュラー				重量合計 kg	階級比率 %
	秀	優	良	秀	優	良	秀	優	良			
5L												
4L												
3L							2	7	1	1	11	1.0
2L	4	27	6	2	14	2	9	19	7	5	95	8.9
L	10	166	49	4	55	14	28	55	16	11	408	38.1
M	6	142	63	1	37	20	19	71	16	10	385	36.0
S	2	46	30		10	11	6	37	9	7	158	14.8
2S							1	10	1	1	13	1.2
3S												
重量合計	22	381	148	7	116	47	65	199	50	35	1070	
等級比率	2.1	35.5	13.8	0.7	10.8	4.4	6.1	18.6	4.7	3.3		100.0

平均の糖度は13.3度、酸度は0.89%。荷受けした1089kgのうち、規格外は1kg、腐敗果は18kg

表2 クスリ（殺菌剤）の残効期間と耐雨性の目安（田代暢哉）

クスリ（殺菌剤）の種類	期待できる残効期間 （雨が降らなかった場合）	耐雨性（散布後、効果が 消えるまでの累積降雨量）
ボルドー液	28～35日	300～350mm
ジマンダイセン水和剤	21～28	250～300
デランフロアブル	21～28	250～300
コサイドボルドー	21～28	250～300
ペンコゼブ水和剤	21	200～250
エムダイファー水和剤	21	200～250
リドミル銅水和剤	21	200～250
ストロビードライフロアブル	21	200～250
フロンサイドSC	14～21	150～200
フジオキシラン水和剤	14～21	150～200
キノドーフロアブル	14	150～200
ベルコート水和剤	14	150～200
スコア水和剤	14	150～200
アミスターフロアブル10	14	100～150
ストレプトマイシン剤	3	50

からの降雨量が二〇〇mm
 だったとする。そろそろ残
 効が切れる時期だ。このと
 き、インターネットで「国
 士交通省の防災情報提供セ
 ンター」（http://www.bosaijoho.go.jp/radar.html#a_top）のホームページ
 を開き、現在の雨雲の動き
 を見る。一〇分おきの動画
 で見ることができるので、
 自分の地域にいつ雨が降る
 かの予想がつく。明日五〇
 ～一〇〇mmの雨が降ると
 わかったら、すぐにジマン
 ダイセンをかけるという。
 ここまでやれば万全だ。

他の殺菌剤の
 かけどきもわかる

さて、この雨量計、じよ
 うことポリタンクなどを使



佐賀県多久市の永淵晴彦さんは、庭に学校教材用の雨量計を据えつけていた。手で持った長いほうが雨を貯める容器。もう片方がじょうご。銅製なので長持ちする。雨量を日記につけて、黒点病のほか、そうか病やかいよう病などあらゆる防除の適期を知る目安に使っている

って自分で簡単に作る事ができる
(作り方は二〇〇六年三月号二一九ページを参考に)。

使い方や生かし方も、いろいろあり
そうだ。雨量計はジマンダイセンだけでなく、ほかのクスリの散布適期を知るのにも使える(表2参照)。

「うちの雨量計は庭に置いてありますが、園地が離れているので、本当は園地に一個ずつあるといい」と川崎さん。

雨量計があれば、自分の圃場の防除適期がわかり、いい品物がとれる。圃場に行くのがきつと楽しくなるにちがいない。